

全国賃料統計_2015年9月版_正誤表

年版	該当頁	該当箇所		誤		正	
2015年9月末	28	10行目から12行目		<p>・供給の変化をみると図 I-2-2のように、2014年に引き続き「横ばい」が全体の53%と多いが、東京都区部や政令指定都市等で「増加」が22%と増え、地方都市では「減少」が25%と増加している。</p>		<p>・供給の変化をみると図 I-2-2のように、2014年に引き続き「横ばい」が全体の84%と多いが、東京都区部や政令指定都市等で「増加」が14%と増えている。</p>	
	28	19行目から20行目		<p>・今後については、需要も供給も「横ばい」が共に84%と多くなり、需給状況は2015年と概ね同じ傾向が続くと予想される。</p>		<p>・今後については、需要も供給も「横ばい」が一番多くなり、需給状況は2015年と概ね同じ傾向が続くと予想される。</p>	
	29	図 I-2-1 「オフィス市場における新築物件に対する前年からの需要の動向」	2016予想	減少	1%	減少	25%
				横ばい	84%	横ばい	53%
				増加	14%	増加	22%
		図 I-2-2 「オフィス市場における新規供給の動向」	2015	減少	25%	減少	1%
				横ばい	53%	横ばい	84%
				増加	22%	増加	14%
	47	8行目から10行目		<p>・供給の変化をみると図I-2-13のように、「横ばい」は2012年からずっと全体の8割強と大多数を占めている。「減少」は2012年の8%が2015年には13%に増加し、反対に「増加」は2012年の8%が2015年には1%に減少している。</p>		<p>・供給の変化をみると図I-2-13のように、「横ばい」は2012年からずっと全体の8～9割と大多数を占めており、2015年に「減少」も「増加」も前年より減少している。</p>	
		16行目から17行目		<p>今後については、需要や供給は「横ばい」が共に91%と増加し、需給状況は2015年と概ね同じ傾向が続くと予想される。</p>		<p>今後については、需要や供給は「横ばい」が一番多くなり、需給状況は2015年と概ね同じ傾向が続くと予想される。</p>	
	48	図 I-2-12 「共同住宅市場における新築物件に対する前年からの需要の動向」	2016予想	減少	3%	減少	13%
				横ばい	91%	横ばい	85%
増加				7%	増加	1%	
図 I-2-13 「共同住宅市場における新規供給の動向」		2015	減少	13%	減少	3%	
			横ばい	85%	横ばい	91%	
			増加	1%	増加	7%	